Osaka University Knowledge Archive

Title	Learning Reciprocity and Normative Change : The Case of Inter-Korean Economic Cooperation
Author(s)	金, 愛貞
Citation	大阪大学, 2006, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/47120
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

【５】

氏　　名	金（キム）　愛貞（エジョン）
博士の専攻分野の名称	博　士（国際公共政策）
学　位　記　番　号	第　２０７０５　号
学位授与年月日	平成 18 年 9 月 27 日
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当 国際公共政策研究科国際公共政策専攻
学　位　論　文　名	Learning Reciprocity and Normative Change：The Case of Inter-Korean Economic Cooperation （レシプロシティーの学習と規範的な変化：朝鮮半島における南北経済協力のケース）
論　文　審　査　委　員	（主査） 教　授　星野　俊也 （副査） 助教授　栗栖　薫子　　教　授　黒澤　　満　　助教授　R・エルドリッヂ

論　文　内　容　の　要　旨

The study starts out with a question, how can we realize cooperation between two adversaries ? Recognizing that cooperation in international politics is generally viewed to be difficult, this study attempts to find resolution in the game-theoretic approach to cooperation advanced by neoliberal theories of international relations. By denoting the prominence of reciprocity in the emergence of cooperation, the study seeks to further understanding on reciprocity. This is done through examining the robust of strategies of reciprocity and identifying that the usage of reciprocity ought to be differentiated according to usage. In this process, this study attempts to develop a new type of reciprocity where non-state actors can share the reciprocating role with the states. This reciprocity is coined as ramified reciprocity in the study. By using ramified reciprocity, the study portrays a learning model of reciprocity where states (players) with intense enemy image can learn to practice reciprocity.

This study then attempts to illustrate this learning process and how ramified reciprocity is practiced in a pragmatic case through the inter-Korean economic cooperation. The case is concerned about how the sunshine policy under President Kim Dae Jung incorporated elements of ramified reciprocity in managing the cooperative projects, and what kind of roles the non-state actors are playing in these projects. The case examines three types of inter-Korean economic cooperation: ⑴ Mt. Kumgang tour project; ⑵ Reconnection of railways and roads; and ⑶ the Kaesong industrial Complex. By examining the three projects, the study attempts to illustrate what kind of normative changes can be brought about by such type of cooperation.

論文審査の結果の要旨

「レシプロシティーの学習と規範的な変化：朝鮮半島における南北経済協力のケース」と題する本論文は、敵対関係にある２主体が協力の道を選択する契機・プロセス・ダイナミズムに関する理論的な考察を行い、それを朝鮮半島

の南北朝鮮関係を事例にとりあげ、分析することを目的としている。その際の鍵概念に「レシプロシティー（相互主義・互酬性）の学習」におき、政治・経済体制はもとよりイデオロギー面でも相違が著しい主体間であっても、国家（政府）主体のみならず非国家の主体（ビジネスを含む）を巻き込んだ「ゆるやかな相互主義」を通じた相互作用のなかに「協力」に向けた学習作用が働き、長期的な規範の変化をもたらしうるとの仮説を立て、朝鮮半島での政治的なダイナミズムを背景に検証を試みている。本論文は５つの章から構成されている。

第１章では、複数主体間の協力に関する国際政治理論を概観し、特にゲーム理論の中でも R. アクセルロッドの生成的なアプローチに着目し、「ノン・ゼロ・サム」ゲームの中に相互主義と協力との理論的な接点を見出す。

第２章では、国際関係における相互主義のより踏み込んだ検討を行っている。相互主義理論を再検討し、従来、固定的・限定的で、主体も国家中心的にとらえられがちの本概念の中に「ゆるやかな相互主義（ramified reciprocity）」概念を導入し、脱国家的で機能的な相互主義を実践する非国家主体の一つである多国籍企業の活動が国際関係に及ぼす影響などを分析する。

第３章では、相互主義の実践を通じた学習効果について考察する。特に学習を通じて主体が政策の目標や手段を変更する政治的ダイナミズムを概観し、相互主義がもたらしうる３段階の生成的な変化（第１段階の象徴的変化、第２段階の政策変化、第３段階のパラダイム変化）の道筋を示す。

第４章では、「相互主義と２つのコリア」と題し、朝鮮半島を取り囲む国際情勢の動きや過去の南北朝鮮関係の歴史的展開を相互主義の観点から振り返り、実質的な交流を阻害してきた相互敵対的な要因と、金大中政権の「太陽政策」やそれに対する北朝鮮の対応の中に見出しうる「ゆるやかな相互主義」的な要素を検討する。

第５章では、民間企業も交えた南北経済協力案件（金剛山観光、開城経済特区、南北鉄道連結構想）における「ゆるやかな相互主義」を通じた学習の実際について分析する。

長く国家間対立の続く南北朝鮮関係では国家間の相互主義を所与のものとすることはできない。そこで、本稿は相互主義そのものを生み出すきっかけとしての非国家主体の役割、「ゆるやかな相互主義」を通じた協力的活動の広がりと現時点での限界に着目する有益な研究である。南北朝鮮の対立は根深く、抜本的な関係の転換は短期には見込めない。その意味で本論文の仮説の最終的な検証は将来の課題（本論文では南北関係における変化はいまだに第１段階にとどまるとしている）となるが、国際協力理論と朝鮮半島の国際政治に関する国際公共政策的見地からの有益な学問的貢献となっている。審査委員会は本論文は博士（国際公共政策）の学位を授与するに値するものであると一致して認定した。